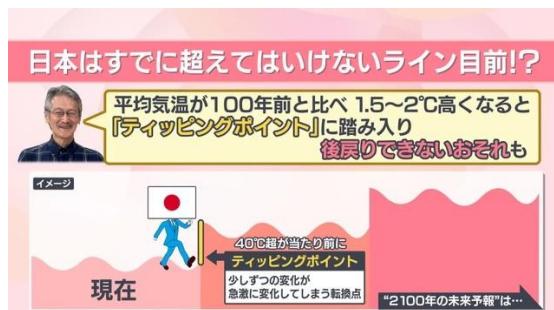


気象変動・異常気象専門の三重大学 立花 義裕教授によると『最近の熱中症死者数は 2023 年で 1651 人ですが、温暖化対策をしなければ 10 年後の 2035 年には 10 万人を超えるが予測され、日本列島では既にかなり危険なラインまで近づいている。100 年前と比べて、平均気温が 1.5~2℃ 高くなると「**ティッピングポイント**」に踏み入り、後戻りできなくなるおそれがある』といいます。

「**ティッピングポイント**」とは、少しずつの変化が急激に変化してしまう転換点のこと、目前まで迫っており、此處を超えると、40℃超えの未来が当たり前になってしまうといいます。(図 3) 温暖化対策をしないと 10 年後には熱中症の死者数が 1 万人を超えるといわれています。(図 4)



(図 3)



(図 4)

更に、温室効果ガス・CO₂ が増えると地球温暖化が進みますが『**ティッピングポイント**』という臨界温度を超てしまうと、その後 温暖化対策をしても、気温は戻らないという研究があります。

私たちのできる温暖化対策

1997 年に定まった「京都議定書」の後を継ぎ、2015 年 12 月パリで開催された COP21 (国連気象変動枠協定第 21 回締約会議) で世界 200 か国が合意成立した。2020 年以降の地球温暖化対策に国際的な枠組みとして、世界共通の長期目標として、世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて 2 度より充分低く保つと共に **1.5 度の抑える努力を追求すること** を目標に掲げられています。

将来のためにも世界規模で**パリ協定に掲げられている「1.5℃の約束」を守る必要**があり、温暖化対策に取り組んで貰いたいものです。

この夏も 物価と気温 競い合い

夏だけが すんごく長くなっている

令和 7 年 处暑